

千年ふむともあかしとぞ思ふ

奥村さし子

よせ返す波のしらへも音すみて

葉山の浦は月さやかなり

横山 碩

あつけさをさけてのみとふ人々に

田越の浦の春を見せはや

加藤 雛子

こえくれば松の木かけに海みえて

白波かすむ返子のうらく

相澤 求

立ち并ぶ松の葉山の浦風に

はてうちて行くあまのつり船

大竹伊勢子

よる波の間なくひまなく音さやく

葉山の浦は夏としもなし

同上

立ちこむる霞の庭ものとかにて

葉山の浦は月になり行く  
佐藤朝恵子

高殿の玉琴のしらべ音たえて

葉山の沖に秋風をふく

井原 豊作

おなしくはかゝるさかひに住みてまじ

松青きところ波きよきところ

おとづれ

つねを

むしの歌聲

さゝながら

庭によりたる

まる窓に

問はず語りの

あきの夜は

ひとりこゝろを

もみぢ葉の

あかき情けの

あふれてか

こひしき友の

染められて

折りから告ぐる

雁が音の

嬉しさあまる

けふの音信

### 世の習ひ

かはり行く世の  
つよきはさかえ  
日々にたくる、  
世界の地圖に

### 全 人

ならひとて  
かよわきは  
ことわざを  
見するかな

## 説 林

### 遊戯の方針(承前)



町田 則文

第二には、其遊びの重なる事柄は、皆筋肉を勞する、決して文學的などいふ事ではなくして、皆筋肉を動かす、即ち身體の活動に關する事が多い。頭腦を使ふといふような遊びは子供の内はない、皆必らず相撲の取合ひとか、走りツことか、筋肉を發育させるを主眼として居る、甚だしきは粗暴的原素を含んで居る、男ならば戦争事とか、人を